

※本紙の英語版・中国語版・韓国語版・フランス語版は、当協会HPからダウンロードできます。

(財)福島県国際交流協会 平成23年6月10日発行号

この度の東日本大震災により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。Gyro 特別版「がんばろう 福島」では、福島県の現状や、県内の国際交流団体や外国出身県民の様子などをお伝えします。



福島の今



色とりどりの花が咲く四季の里
(福島市 2011.5.14 撮影)



復旧イベントで賑わう街なか広場
(福島市 2011.5.15 撮影)



急ピッチで建設が進む避難者用仮設住宅
(福島市 2011.5.26 撮影)



福島からの声

シャルマ ナレンドルさん (インド出身 男性 福島市)

来日して10年になります。市内でインド料理レストラン2店舗と中古自動車販売会社を経営していましたが、地震発生後、レストランは材料が調達できないため一週間ほど店を閉めて、ほぼ毎日市内の避難所で炊き出しをしていました。現在は3店舗とも営業を再開しています。ただ、原発事故による放射能の風評被害でしょうか？中古車は県内では売れますが県外からの購入者は少なく販売が大幅に落ち込んでいます。このままでは経営が厳しい状況です。でも従業員は全員残ってがんばっています。

高橋イエティさん (インドネシア出身 女性 川俣町)

地震発生時、子育てボランティアの活動中でした。参加していた就学前の子どもたちを安全な場所まで避難させた後、揺れが収まるのを待って会場の戸締りを確認して帰りました。自宅は井戸水を使っていたので、水だけは普通に使えました。しかし、上水道ではないため役場の放射線レベル検査が受けられず、逆に飲んで大丈夫なのかが不安です。築百年の家は地震でひどく傷んでしまい、役場に罹災証明書を申請しましたが、損壊の状況を十分に説明できず、適正な評価だったのか不安です。小学生の子どもたちの健康を考えると、関西方面に移りたいです。でも子どもたちの学校のことがあるため決断できません。

クロイ ウッディングさん

(イギリス出身 女性 郡山市)

郡山市内で英語教師をしています。地震当日は小学校での3学期最後の授業がある日でした。家に帰ったら、家中めちゃくちゃの状態になっていました。近所の人に一人では大変だからと招かれて、朝まで一緒にいさせてもらって、とても心強かったです。新学期が始まって学校に行くと、子どもたちが歓声を上げて迎えてくれました。原発問題で厳しい環境に置かれている子どもたちを元気づけたいです。放射能のことは心配ですが、母国にいる父からは今のレベルでは大丈夫だよと言われ安心しています。以前から習っているお茶の稽古の時間だけは、いろいろな不安から解放されリラックスできますね。

呂学如さん (中国出身 男性 月舘町)

あの地震の時、あまりの大きな揺れに正直言って「これが最期だな」と覚悟を決めました。その後も大きな余震が続いたので、その晩は家内と愛犬2匹で車の中で寝ました。放射能はもちろん心配です。でも心配しすぎると精神的に悪いし、かえって病気になってしまうと思います。レントゲン検査と比べればそれほどでもない、これも私の人生の一部、天命である、平常心でいなければと思っています。そう思わないと生きていけません。一時帰国していた家内も5月末には戻ってきます。また一緒に愛犬と散歩したいですね。



オーシン コリンズさん (いわき市、オーストラリア出身)

国際交流員のオーシンさんは、震災後の16日に一旦いわき市を出て県外の友人宅に身を寄せていました。しかし、いわき市の被災状況がだんだん分かってきて何かしなければという思いで、大使館からの避難勧告を振り切って5日後にはいわき市に戻りました。すぐに友人とともに沿岸部のがれき撤去のボランティア活動に関わる一方、ソーシャルネットを通じた海外からのボランティア活動の申し出に対しコーディネートを行いました。現在は、いわき市での震災の経験を記事にして、同市の英語冊子「いわきビジョン」に載せる作業に取り組んでいます。



<http://www.city.iwaki.fukushima.jp/gaikokugo/english/>

ふくしま海外青年協力隊の会 (会津若松市)

青年海外協力隊のOB会であるこの会は、毎週日曜日の午前中、二本松市にあるJICA訓練所に避難している子どもたちへの学習支援を行ってきました。この学習支援は5月1日で終了しましたが、5月8日にはこの会が毎年学校や公民館等で行っている途上国を楽しく知る体験型講座「地球体験キャラバン」を開催しました。周辺の避難所にいる子どもたちやボランティアの方々が集まってきて、OBの人たちから名前も聞いたことのない外国の様子を聞いたり、みんなでアフリカの太鼓ジャンベを叩いたりして、楽しく過ごしました。



heart for haragama(福島市)

前当協会国際交流員でカナダ出身のマクマイケル ビリィさんは、県内の英語指導助手や日本人の友人と一緒に、地震と津波で大きな被害を受けた相馬市にある「原釜幼稚園」を再建しようとこの会を立ち上げました。この幼稚園



は、ビリィさんの友人のお父さんが経営している私立幼稚園で、多くの園児やその家族が被災しました。この会は、月1～2回程度で訪問し、お米や冷蔵庫、車といった物資を届けたり、園児との交流会を開催したりと、きめの細かい支援活動を続けています。

<http://hearts4haragama.wordpress.com/>

福島グローバルロータリークラブ (福島市)



3月27日、避難所の人たちを元気づけたい、応援したいと会員でパキスタン出身の佐藤バシヤラットさんが中心になって、避難所になっている郡山高校に約30食、橘小学校に約50食のパキスタンカレーを差し入れました。また、5月に入ってからボランティア団体 Bridge for Fukushima や郡山市内の英語の先生と一緒に、津波の被害のあった南相馬市鹿島区のがれき撤去や泥の片づけを行いました。これからも継続して被災地のニーズを調査し、そのニーズに応じた活動を長期的に続ける予定です。<http://www.f-global.jp>



お知らせ

平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況即報

福島県HPでは、「環境放射線能測定結果(暫定値)」をはじめとして様々な地震による被害状況即報を日本語、英語、中国語で随時更新しています。なお、当協会HPでは、その一部を、タガログ語、韓国語、ポルトガル語で更新しています。

<http://wwwcms.pref.fukushima.jp/>

外国語による地震情報センター

当協会では、英語と中国語で、震災に関わる様々な相談に応じています。その他の言語については、他の相談機関をご紹介しますので、お気軽にお問い合わせください。

- 時間：月～金 9時～16時
- 電話：024-524-1316(専用)、024-524-1315

チャリティ国際理解講座 参加者募集 『震災から私たちの地球と未来を見つめる』

- 日時：7月9日(土) 13:00～16:00
- 会場：郡山市市民交流プラザ大会議室2(ビッグアイ7F)
- 対象：高校生以上一般30名(先着順受付)
- 講師：木下理仁さん(かながわ開発教育センター事務局長)

参加費無料

問い合わせ・申し込みは、当協会まで。
会場内に東日本大震災義援金箱を設置します。

発行者

(財)福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1
福島県庁舟場町分館2階

☎024-524-1315 FAX 024-521-8308

E-mail info@worldvillage.org

URL <http://www.worldvillage.org>